

熊本高等専門学校				共通教育科（熊本）				開講年度				平成29年度（2017年度）															
学科到達目標																											
(1) 日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者 1-1：日本語における適切な文章表現および口頭的意思伝達ができる 1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめる 1-3：自分の考え方を簡潔な英語で表現できる (2) ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者 2-1：ICT技術に関する基礎的技術を身につける 2-2：種々の情報を分析する技術を身につける (3) 各分野における技術の基礎となる知識と技能およびその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者 3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける 3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができる 3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる 3-4：基礎的な実験技術を身につける (4) 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者 4-1：広い視野で物事を考えることができる 4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができる 4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身につける 4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる (5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者 5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる 5-2：社会における倫理的な問題を認識することができる (6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者 6-1：好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる 6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身につけ、社会との関連を理解できる 6-3：主体的に継続的に学習できる																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	必修	国語I	LK1101	履修単位	2	2																草野 美智子					
一般	必修	政治・経済	LK1102	履修単位	2	2																	永野 拓也				
一般	必修	数学I	LK1103	履修単位	6	6																	石原 秀樹, 菊池 耕士, 山崎 充裕				
一般	必修	化学	LK1104	履修単位	3	3																	松上 優				
一般	必修	総合理科I	LK1105	履修単位	1		2																松上 優				
一般	必修	保健体育I	LK1106A	履修単位	2	2																	高橋 恭平, 岩田 大助, 堀田 修				
一般	必修	保健体育I（保健）	LK1106B	履修単位	1	1																	高橋 恭平				
一般	必修	英語I	LK1107A	履修単位	4	4																	松尾 かな子, 光永 武志				
一般	必修	英語I（英会話）	LK1107B	履修単位	1																		Wians Jason				
一般	必修	国語 I 演習	LK1108	履修単位	1		2																草野 美智子				
一般	必修	芸術（音楽）	LK1109A	履修単位	2		4																河田 勇一				
一般	必修	芸術（美術）	LK1109B	履修単位	2	4																	筒井 周二				
一般	選択	基礎科目応用第一	LK1151	学修単位	1	0.5	0.5																教務係（または非常勤講師）				

[illegible]

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語I
科目基礎情報						
科目番号	LK1101			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	新編 国語総合 数研出版（代表著作者 坪内稔典）					
担当教員	草野 美智子					
到達目標						
日本語に関する技能や言語感覚を育成することで、円滑な社会生活を送ることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
書く力	自分の意見（主張）に対して、理由（根拠）が書ける。説得力を持たせるために、データ・先行研究・引用を駆使できる。自分の考えと引用を区別する。冗長な文章にならないために、一文の長さに気をつける。序論・本論・結論など文章の構成や何を伝えるのか方向性を考えて書く。文体を統一する。誤字・脱字がない。参考文献を書く。インターネットは、閲覧日とURLを明記する。			自分の意見（主張）に対して、理由（根拠）が書ける。説得力を持たせるために、データ・先行研究・引用するときがある。自分の考えと引用を区別する。冗長な文章にならないために、一文の長さに気をつける。序論・本論・結論など文章の構成や何を伝えるのか方向性を考えて書く。文体を統一する。誤字・脱字がない。参考文献を書く。インターネットは、閲覧日とURLを明記する。		自分の意見（主張）に対して、理由（根拠）が明確に書けない。データ・先行研究、引用の使い方が適切でない。自分の考えと引用を区別しない。一文が長く冗長な文章になっている。序論・本論・結論など論文の構成や何を伝えるのか方向性が曖昧である。文体が統一されていない。誤字・脱字がある。参考文献を示さない。インターネットは、閲覧日とURLを明記しない。
話す力	聴衆を見渡ししながら、視線を合わせることができる。さまざまな説明の方法や手段を駆使し、わかりやすく伝え、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる。短く簡潔な文でわかりやすい語彙と表現を用いて話す。ゆっくりした口調で会場の広さに応じた声の大きさで、相手の理解度に応じて話す。自分の考えや意見を積極的に伝えようとする熱意にあふれている。一方的にならずに、相手からの質問や反論に適切に回答して、対話や議論を展開できる。自分の体験やこれまでの知識を駆使して具体性に話して、説得力を増して話す。			時々聴衆を見渡ししながら、視線を合わせることができる。わかりやすく伝え、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる。比較的短く簡潔な文でわかりやすい語彙と表現を用いて話す。比較的ゆっくりした口調で会場の広さに合わせた声の大きさで、時々相手の様子を見ながら話す。発表の機会を勉強ととらえ自分の意見や考えを述べる。相手からの質問に適切に回答する。これまでの知識を駆使して具体的に話す。		聴衆と視線を合わせることなく、下を見て発表原稿ばかり読んで朗読になっている。何を話すかまとまっておらず、内容が伝わらない。早口であったり会場の後ろまで聞こえない小声で話す。相手の理解とは関係なく一方的に話す。発表の機会があっても逃げようとする。質問が出ても適当に答えるか、答えられない。話が具体的でない。
読む力	文章全体に目を通し、どんなことが書かれているか、分からない用語を調べながら読む。書かれている内容をそのまま鵜呑みにせず、批判的に疑問を持ちながら読む。キーワードやキーセンテンスを見つけて読む。段落間のつながりを考えながら読む。著者の最も伝えたいこと（主張とそれを裏付ける根拠）を意識して読む。よく通る声で感情をこめながら朗読できる。			文章に目を通し、どんなことが書かれているかを意識しながら読む。書かれている内容をまずは正確に読む。繰り返し出てくる言葉をキーワードやキーセンテンスととらえて読む。前後の段落間のつながりを考えながら読む。著者の最も伝えたいこと（主張とそれを裏付ける根拠）を抜き出す形で読む。範読に従って正しく読める。		教科書を忘れる。自分から読もうとせずに、板書に依存する。分からない用語をチェックしない。書かれている内容をそのまま鵜呑みにし、疑問を持たない。キーワードやキーセンテンスを見出すことなく漫然と読む。段落間のつながりを考えない。著者の最も伝えたいこと（主張とそれを裏付ける根拠）を自分から見いだせない。声がかくぐもって発音が明瞭でない。漢字の読み間違いがある。
聞く力	顔を挙げて相手の話を最後まで傾聴して、十分に理解した上で、さまざまな視点から考えることができる。相槌やうなずきを入れて相手が話しやすい雰囲気を作る。メモを取りながら、内容への質問や意見、疑問点を考えながら聴く。以前のメモを振り返って、今日の話と関連付けられるように聴く。多様な意見や考えを柔軟に受け入れて視野を広げる態度で聴く。			相手の話を最後まで聴き、意図や気持ちなどまで理解できる。好意的な表情を浮かべて相手が話しやすい雰囲気を作る。メモを取る。様々な意見があることを受け入れる。		相手の話を最後まで聴かずに、勝手な判断をしたり、鵜呑みにして、理解できていない。下を向いて話を聴こうとする積極的な姿勢が見られない。メモを取らない。自分の意見に固執して他人の考えを聴こうとしない。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	「国語」の授業では、皆さんが社会人となり、職場や地域、家庭等で、円滑なコミュニケーションを行う際に必要な技能や感覚、態度について取り扱う。大きく分けて「教養」と「ロジック」の2つのジャンルを学ぶ。「教養」とは「美しい日本語の表現」「正しい敬語の使い方」「漢字や熟語の知識」「手紙の作法」「文学の知識」である。「ロジック」とは「誤解されない説明の仕方」「的を射た受け答えの仕方」である。					
授業の進め方・方法	教科書による授業が中心となる。日本語による「読む」「書く」「聴く」「話す」の全領域について、精読を通して内容を的確に読みとり、語彙力を高め、理解する力を養う。教員と学生、学生同士のインタラクティブな活動により、考察力、表現力、コミュニケーション能力も磨く。「国語Ⅰ」の授業内容に「国語演習Ⅰ」を含むものとする。					
注意点	3単位科目 90時間の授業。国語はすべての教科の基本となるため、積極的に取り組むこと。課題は期日までに確実に提出すること。分からない点は、分かるまで授業中や後で質問をする。授業内容に関連する日常現象や出来事について触れたときには、自主的に内容を調べる。習った内容について、日常生活の中で当てはまる場面がないか注意して観察する。					
授業計画						
		週	授業内容			週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	イントロダクション 図書館ガイダンス			国語学習の概要について理解する。

後期		2週	随想「世界は一つのクラスルーム」①	・主旨を正確に理解する。 ・語句の意味を的確に捉える。 ・筆者の経験を、自分の体験に置き換えて考える。
		3週	好きなものの紹介	・筆者の経験を、自分の体験に置き換えて考える。 ・発表する。
		4週	小説「指」①	・登場人物の心理の変化を読み取る。 ・作品の構成・展開を正しくとらえる。
		5週	小説「指」②	・登場人物の心理の変化を読み取る。 ・作品の構成・展開を正しくとらえる。 ・作者の考えを叙述に即して的確に読み取る。
		6週	小説「指」③	・登場人物の心理の変化を読み取る。 ・作品の構成・展開を正しくとらえる。 ・作者の考えを叙述に即して的確に読み取る。 ・感想を200字で書く
		7週	評論「ものづくり」①	・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取る。 ・接続詞の働きや指示語の内容を正確に理解する。 ・筆者の考える「ものづくり」の意味を理解する。
		8週	評論「ものづくり」②	・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取る。 ・接続詞の働きや指示語の内容を正確に理解する。 ・筆者の考える「ものづくり」の意味を理解する。
	2ndQ	9週	中間試験	授業の総括をし、試験を行う。
		10週	答案返却 漢文入門① 訓読、書き下し文、故事成語	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。 ・訓点の用法を理解し、訓読できるようになる。 ・訓点に従って故事成語の訓読文を正確に書き下し文にする。 ・故事成語の意味を理解する。
		11週	漢文入門②	・訓点の用法を理解し、訓読できるようになる。 ・訓点に従って故事成語の訓読文を正確に書き下し文にする。 ・故事成語の意味を理解する。
		12週	小説『羅生門』①	・主人公の心の変化を読み取る。 ・作品の構成を理解する。 ・主人公の心理変化と行動を把握する。 ・近代を代表する作家の表現技術について考察する。 ・グループ活動で劇にして上演する。
		13週	小説『羅生門』②	・主人公の心の変化を読み取る。 ・作品の構成を理解する。 ・主人公の心理変化と行動を把握する。 ・近代を代表する作家の表現技術について考察する。 ・グループ活動で劇にして上演する。
		14週	小説『羅生門』③	・主人公の心の変化を読み取る。 ・作品の構成を理解する。 ・主人公の心理変化と行動を把握する。 ・近代を代表する作家の表現技術について考察する。 ・グループ活動で劇にして上演する。
		15週	定期試験	授業の総括をし、試験を行う。
		16週	答案返却	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。
	3rdQ	1週	スピーチ・集団討論①	・テーマに沿って人前でわかりやすく発表する。 テーマに沿って集団で討論する。
		2週	スピーチ・集団討論②	・テーマに沿って人前でわかりやすく発表する。 テーマに沿って集団で討論する。
		3週	小説『夢十夜』①	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 ・冒頭の一文の位置づけと、作品の構造を理解する。 ・寓意について読み取る。 ・作者や日本の近代文学についての理解を深める。
		4週	小説『夢十夜』②	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 ・冒頭の一文の位置づけと、作品の構造を理解する。 ・寓意について読み取る。 ・作者や日本の近代文学についての理解を深める。
		5週	創作「夢十夜」と相互批評	・短編小説を創作する。 ・相互に読み合い批評する。
		6週	唐詩①	・近体詩の形式、きまり等を理解し、作者の意図を理解する。 ・決まりに則って、詩を創作する。
		7週	唐詩②	・近体詩の形式、きまり等を理解し、作者の意図を理解する。 ・決まりに則って、詩を創作する。
		8週	中間試験	授業の総括をし、試験を行う。
	4thQ	9週	答案返却 評論「減じるものは減じるままに」①	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。 ・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取り、ボランティアについての理解を深める。
		10週	評論「減じるものは減じるままに」②	・筆者の論理性をもったアプローチを理解し、内容を読み解くとともに、人生観や価値観を育む。
		11週	評論「減じるものは減じるままに」③	・筆者の論理性をもったアプローチを理解し、内容を読み解くとともに、人生観や価値観を育む。

		12週	十八史略「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」①	・句法に注意しながら口語訳し、出来事の経緯や登場人物の役割を的確に読み取る。 ・さまざまな人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。 ・劇にして上演する。
		13週	十八史略「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」②	・句法に注意しながら口語訳し、出来事の経緯や登場人物の役割を的確に読み取る。 ・さまざまな人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。 ・劇にして上演する。
		14週	十八史略「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」③	・句法に注意しながら口語訳し、出来事の経緯や登場人物の役割を的確に読み取る。 ・さまざまな人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。 ・劇にして上演する。
		15週	定期試験	授業の総括をし、試験を行う。
		16週	答案返却	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	2	前1,前2,前7
			代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	2	前2
			文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	2	前2,前7
			文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	2	前2
			鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
			読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
			現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	2	
			代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	2	
			古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	2	
			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	2	
			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	2	
			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	LK1102			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『詳説 政治・経済』 山川出版社						
担当教員	永野 拓也						
到達目標							
評価項目1 民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。 評価項目2 資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。 評価項目3 統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。 評価項目4 財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。			民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学の基礎的語句の半数強を判別でき、文章による説明ができる。		民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学の基礎的語句の半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。	
評価項目2	資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。			資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学の基礎的語句の半数強を判別でき、文章による説明ができる。		資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学の基礎的語句の半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。	
評価項目3	統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史にかんする基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。			統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史にかんする基礎的語句の半数強を判別でき、文章による説明ができる。		統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史にかんする基礎的語句半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。	
評価項目4	財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。			財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。		財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学の基礎的語句の半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	政治分野・経済分野それぞれの基礎的な内容を解説する。とりわけ、民主主義、憲法、統治機構、国際政治（以上政治分野）、資本主義経済、貨幣・金融、財政、国際経済（以上経済分野）を教科書にそって解説し、適宜論述課題を与え、小論文・作文を作成させる。						
授業の進め方・方法	教科書に従い講義を中心に進める。新聞を中心とした主に印刷された報道・情報を収集し、教科書にない時事的な内容も織り交ぜて興味・関心を引くようにする。今日の日本の政治と経済についての基礎的な知識を獲得すると共に、有権者となったとき、積極的に選挙に参加する公民としての意欲を育てたい。また論述課題を通して、与えられたテーマについて、偏見なく他人に伝わるように論じられる論述力を養いたい。						
注意点	2単位科目 60時間。 2年以降の社会系科目の基礎となる。関連科目は世界史、倫理、日本史、4年の選択社会科科目。 授業項目1～9から出題する定期筆記試験（80％）と論述課題（20％）で総合評価し、60％以上の得点で合格とする。未提出の論述課題は0点とする。 プリントなどの配布物はきちんととっておくこと。居眠り、私語厳禁。教科書を何度も読みこむこと。そして大事なところにアンダーラインを引く。次に授業の板書事項や説明事項をよくメモして、自分なりのノートを作成して欲しい。 また授業の際は時々、意見を問うので自分の考えを述べる習慣をつけてほしい。試験の前は教科書とノートを良く見返し、復習すること。寮生はテレビを見る機会が少ないが、新聞やラジオによるニュースにはふれることができる。できるだけニュースを見る・聞く・読むそして考えるクセをつけてほしい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		政治・経済とは何かについて理解し説明できる		
		2週	民主主義と基本的人権		民主政治の基本原理や諸原則について説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。		
		3週	民主政治の諸原則		同上		
		4週	主要国の政治制度		同上		
		5週	憲法の原理と政治機構		同上		
		6週	基本的人権の尊重		同上		
		7週	日本国憲法		同上		
		8週	小論文・作文				
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	試験答案返却と試験解説				
		11週	資本主義の発展と経済学		資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学について基礎を理解し、説明説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。		
		12週	市場と経済		同上		
		13週	国民所得と経済成長		同上		

後期		14週	貨幣と金融	同上
		15週	定期試験	
		16週	試験答案返却と試験解説	
	3rdQ	1週	国会と内閣	統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史について説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。
		2週	裁判所と地方自治	同上
		3週	民主政治の諸問題	同上
		4週	国際社会と国際連盟	同上
		5週	国際連合と国連による平和維持活動	同上
		6週	冷戦の展開とその終焉	同上
		7週	国際平和と日本の役割	同上
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験答案返却と試験解説	
		10週	財政	財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学について基礎を説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。
		11週	日本経済史、産業構造の変化	同上
		12週	貿易、国際収支、外国為替	同上
		13週	IMF体制、地域統合経済	同上
		14週	国際経済の諸問題	同上
		15週	定期試験	
		16週	定期試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	前11,前12,前13,前14,後10,後11,後12
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	後1,後2,後3
		地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	1	後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14	

評価割合

	試験	小論文・作文	相互評価	態度	合計
総合評価割合	80	20	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	数学I
科目基礎情報						
科目番号	LK1103		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 6		
開設学科	共通教育科 (熊本)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	6		
教科書/教材	高遠 節夫ほか「新 基礎数学」(大日本図書)／高遠 節夫ほか「新 基礎数学 問題集」(大日本図書)					
担当教員	石原 秀樹,菊池 耕土,山崎 充裕					
到達目標						
この授業で取り上げた項目について次ができることを目標にする。 (1) 基本的な計算ができる (2) 定義や定理・公式の意味を理解し応用問題への適用ができる (3) 自らの力で分析や統合を行い、学習内容を活用できる (4) 既に学習した内容や他の分野との関連づけができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
数と式の計算、方程式と不等式	高次方程式、高次不等式の解を求めることができる。		2次式の因数分解ができる。 2次方程式、2次不等式を解くことができる。		2次式の因数分解ができない。 2次方程式、2次不等式を解くことができない。	
関数とグラフ	具体的な事象に対して、2次関数に帰着して問題を解決することができる。		2次関数、無理関数、分数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		2次関数、無理関数、分数関数のグラフをかくことができない。	
指数関数と対数関数	具体的な事象に対して、指数関数、対数関数を用いて問題を解決することができる。		指数関数、対数関数の性質を理解し、基本的な計算ができ、グラフをかくことができる。		指数関数、対数関数に関する基本的な計算ができない。 指数関数、対数関数のグラフをかくことができない。	
三角関数	具体的な事象に対して、三角関数を用いて問題を解決することができる。		三角比に関して理解し、基本的な三角比、正弦定理、余弦定理を用いた計算ができる。三角関数に関して理解し、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。		三角比、三角関数に関する基本的な計算ができない。 三角関数のグラフをかくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学の学習は一貫した流れの中で成立します。基礎的知識の習得、基礎的技能の習熟を図り、いろいろな問題や出来事を数学的に考える能力とそれを数学的に処理する能力を高めます。また、数学的思考方の良さを認識を高め、数学を更に積極的に活用する能力を身につけます。					
授業の進め方・方法	定期試験(60%)とその他(小テスト、レポート等)(40%)で評価し、60%以上で目標達成とする。なお、到達目標を達成できなかった学生に対しては、再学習を課し、その後、再度到達度を確認するための試験を実施することがある。数学の勉強は1日1日の積み重ねです。					
注意点	「基本的な〇〇ができる」とは、教科書の例題、問において与えられている考え方を理解し、実際に類する問題に適用できることをいいます。計算技法、公式や定理の使い方を学習し、然るべき方法で正しい解答を得ることが大切です。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の加法・減法・乗法		整式の加法・減法・乗法について、基本的な計算ができる。	
		2週	因数分解、整式の除法		因数分解、整式の除法について、基本的な計算ができる。	
		3週	剰余の定理と因数定理		剰余の定理と因数定理を理解し、整式の除法に適用することができる。	
		4週	分数式の計算、実数		分数式について、基本的な四則演算ができる。	
		5週	平方根、複素数		平方根、複素数について、基本的な四則演算ができる。	
		6週	2次方程式		基本的な2次方程式を解くことができる。	
		7週	解と係数の関係		解と係数の関係を理解し、2次式の因数分解に適用することができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	いろいろな方程式、恒等式		基本的な高次方程式、無理方程式、分数方程式を解くことができる。また、恒等式について理解し、未定係数を求めることができる。	
		10週	等式の証明		等式の証明方法を理解し、基本的な証明をすることができる。	
		11週	不等式の性質、1次不等式の解法		不等式の性質を理解し、基本的な1次不等式を解くことができる。	
		12週	いろいろな不等式、不等式の照明		基本的な2次不等式、連立方程式不等式を解くことができる。不等式の証明方法を理解し、基本的な証明をすることができる。	
		13週	集合、命題		集合と命題の概念を理解できる。	
		14週	関数のグラフ、2次関数のグラフ		2次関数のグラフをかくことができる。	
		15週	2次関数の最大・最小		2次関数の特徴を理解し、最大・最小を求めることができる。	
		16週	前期定期試験			
後期	3rdQ	1週	2次関数と2次方程式、2次関数と2次不等式		2次関数と2次方程式、2次不等式の関係について理解できる。	

		2週	べき関数、分数関数	べき関数、分数関数の特徴を理解し、グラフをかくことができる。
		3週	無理関数、逆関数	無理関数、逆関数の特徴を理解し、グラフをかくことができる。
		4週	累乗根、指数の拡張	累乗根、指数法則を用いて、基本的な四則演算ができる。
		5週	指数関数	指数関数の特徴を理解し、グラフをかくことができる。
		6週	対数	対数の性質を理解できる。
		7週	対数関数、常用対数	対数関数の特徴を理解し、グラフをかくことができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	鋭角の三角比、鈍角の三角比	鋭角、鈍角の三角比を求めることができる。
		10週	三角形の応用	正弦定理、余弦定理を理解し、三角形の角や辺の長さ、面積を求めることができる。
		11週	一般角、一般角の三角関数	一般角の概念を理解できる。
		12週	弧度法、三角関数の性質	三角関数の性質を理解できる。
		13週	三角関数のグラフ	三角関数の特徴を理解し、グラフをかくことができる。
		14週	加法定理	加法定理を理解できる。
		15週	加法定理の応用	加法定理を用いて、新たな公式を導くことができる。
		16週	後期定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	2	前1
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	2	前2,前3
				分数式の加減乗除の計算ができる。	2	前4
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	2	前5
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	2	前5,前6
				複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	2	前6,前7
				解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	2	前7,前8
				因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	2	前9
				簡単な連立方程式を解くことができる。	2	前9
				無理方程式・分数方程式を解くことができる。	2	前9
				1次不等式や2次不等式を解くことができる。	2	前11,前12
				1元連立1次不等式を解くことができる。	2	前12,前13
				基本的な2次不等式を解くことができる。	2	前12,後1
				恒等式と方程式の違いを区別できる。	2	前9
				2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	2	前15,前16
				分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	後1,後2
				簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	2	後3
				無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	後3,後5
				関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。	2	後6
				累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	2	後7
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	後8
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	2	後9
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	2	後10
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	後11
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	2	後12
				三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	2	後13
				角を弧度法で表現することができる。	2	後14
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	後14
加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	2	後15				
三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	2	後16				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	化学
科目基礎情報						
科目番号	LK1104			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	共通教育科 (熊本)			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	3	
教科書/教材	「改訂版 化学基礎」 数研出版, 「化学」 数研出版 / 「四訂版 リードα 化学基礎」 数研出版, 「フォローアップドリル 化学基礎」 数研出版, 「三訂版 フォトサイエンス化学図録」 数研出版					
担当教員	松上 優					
到達目標						
我々の身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため, 「物質の成り立ち」, 「原子の構造とそれから発現する性質」, 「化学結合」, 「化学反応」などの基礎を習得する。 高校化学要領基礎化学の目標に習い, 以下を学生が目指す到達目標とする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め, 目的意識をもって観察、実験などを行なうことができる。 ・化学的に探求する能力と態度を育成し, 化学の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また, 科学的な見方や考え方ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
化学と人間生活	物質と人間生活, 化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連, 歴史に関心や探究心をもち, 意欲的にそれらに取り組むとともに, 科学的態度を身につけている。また, それらの応用問題を解くことができる。		物質と人間生活, 化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連, 歴史に関心や探究心をもち, 意欲的にそれらに取り組むとともに, 科学的態度を身につけている。また, それらの基本問題を解くことができる。		物質と人間生活, 化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連, 歴史に関心や探究心をもち, 意欲的にそれらに取り組むことができない。また, 科学的態度を身に付けていない。さらに, それらの基本問題を解くことができない。	
物質の構成 ・物質の探求 ・原子の構造と元素の周期表 ・化学結合	物質の探究をするために, 物質の構造・状態・成分・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることを理解し, その知識で物質の構成に関する応用問題を解くことができる。		物質の探究をするために, 物質の構造・状態・成分・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることを理解し, その知識で物質の構成に関する基本問題を解くことができる。		物質の探究をするために, 物質の構造・状態・成分・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることをほとんど理解しておらず, 物質の構成に関する基本問題を解くことができない。	
物質の変化 ・物質量と化学反応式 ・酸と塩基 ・酸化還元反応	物質量と化学反応式, 酸と塩基, 酸化還元反応に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 基本的な知識を身につけ, それらの応用問題を解くことができる。		物質量と化学反応式, 酸と塩基, 酸化還元反応に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 基本的な知識を身につけ, それらの基本問題を解くことができる。		物質量と化学反応式, 酸と塩基, 酸化還元反応に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解しておらず, それらの基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物質に対する科学的な見方, 考え方や基本的な概念や原理・法則を理解する。					
授業の進め方・方法	本科目では教科書に従い講義を中心に進める。 前期: 化学と人間生活, 物質の構成, 物質の構成粒子, 粒子の結合, 物質量と化学反応式, 酸と塩基 後期: 酸と塩基の反応, 酸化還元反応					
注意点	3単位科目 90時間 (前期: 2コマ, 後期: 1コマ) フォローアップドリル, リードαを用いて, 授業内容について自学自習 (復習) すること。 試験の成績が60点に達しない場合は, 再試験を行なうことがある。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス／化学と人間生活		代表的な金属やプラスチックなど有機材料について, その性質、用途、また, その再利用など生活とのかかわりについて理解する。 洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて理解する。 ダニエル電池についてその反応が説明できる。	
		2週	物質の探求		物質が原子からできていることが説明できる。 単体と化合物の意味と具体例が説明できる。 同素体がどのようなものか説明できる。 純物質と混合物の区別ができる。 混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。 物質を構成する分子・原子が常に運動していることが理解できる。 水の状態変化が理解できる。 物質の三態とその状態変化を説明できる。	
		3週	原子の構造		原子の構造 (原子核・陽子・中性子・電子) や原子番号、質量数を説明できる。 同位体について説明できる。 放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。 原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。 価電子について説明できる。	
		4週	イオン		原子のイオン化について説明できる。 代表的なイオンを化学式で表すことができる。 原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。 元素の性質を周期表 (周期と族) と周期律から考えることができる。	

後期		5週	イオン結合	イオン式とイオンの名称を説明できる。 イオン結合について説明できる。 イオン結合性物質の性質が説明できる。 イオン性結晶がどのようなものか理解できる。
		6週	共有結合	共有結合がどのようなものか説明できる。 構造式や電子式により分子を書き表すことができる。
		7週	金属結合	自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。 金属の性質が説明できる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	原子量・分子量・式量	原子の相対質量が理解できる。 天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを理解できる。
		10週	アボガドロ数と物質質量	アボガドロ定数を理解し、物質質量（mol）を用い物質の量を表すことができる。 分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。 気体の体積と物質質量の関係を理解している。
		11週	溶液の濃度	電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。 質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。 モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。
		12週	化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。
		13週	化学反応式の量的関係	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		14週	酸と塩基の性質・定義	酸・塩基の定義（ブレンステッドまで）が説明できる。 酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。 電離度から酸・塩基の強弱が説明できる。
		15週	水素イオン濃度とpH	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度が計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。
		16週	定期試験答案返却	
	3rdQ	1週	中和反応と塩の生成	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		2週	中和滴定	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		3週	酸化と還元	酸化還元反応について説明できる。
		4週	酸化数	酸化還元反応について説明できる。
		5週	酸化剤と還元剤	酸化還元反応について説明できる。
		6週	電子の授受と反応式	酸化還元反応について説明できる。
		7週	酸化還元反応の量的関係	酸化還元反応について説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	金属の酸化還元反応	イオン化傾向について説明できる。 金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。
		10週	電池の原理	ダニエル電池についてその反応が説明できる。 鉛蓄電池についてその反応が説明できる。
		11週	実用電池	一次電池の種類を知っている。 二次電池の種類を知っている。
		12週	電気分解	電気分解反応を説明できる。
		13週	ファラデーの電気分解の法則	ファラデーの法則による計算ができる。
		14週	電気分解の応用	電気分解の利用として、たとえば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。
		15週	これまでの復習	
		16週	定期試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	2	前1
				洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	2	前1
				物質が原子からできていることを説明できる。	2	前2
				単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	2	前2
				同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	2	前2
				純物質と混合物の区別が説明できる。	2	前2
				混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	2	
				物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	2	前2
				水の状態変化が説明できる。	2	前2
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	2	前2

			原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	2	前3
			同位体について説明できる。	2	前3
			放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	2	前3
			原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	2	前3
			価電子の働きについて説明できる。	2	前3
			原子のイオン化について説明できる。	2	前4
			代表的なイオンを化学式で表すことができる。	2	前4
			原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	2	前4
			元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	2	前4
			イオン式とイオンの名称を説明できる。	2	前5
			イオン結合について説明できる。	2	前5
			イオン結合性物質の性質を説明できる。	2	前5
			イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	2	前5
			共有結合について説明できる。	2	前6
			構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	2	前6
			自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	2	前7
			金属の性質を説明できる。	2	前7
			原子の相対質量が説明できる。	2	前9
			天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	2	前9
			アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	2	前10
			分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	2	前10
			気体の体積と物質量の関係を説明できる。	2	前10
			化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	2	前12
			化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	2	前13
			電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	2	前11
			質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	2	前11
			モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	2	前11
			酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	2	前14
			酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	2	前14
			電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	2	前14
			pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	2	前15
			中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。	2	後1,後2
			酸化還元反応について説明できる。	2	後3,後4,後5,後6,後7
			イオン化傾向について説明できる。	2	後9
			金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	2	後9
			ダニエル電池についてその反応を説明できる。	2	前1,後10
			鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	2	後10
			一次電池の種類を説明できる。	2	後11
			二次電池の種類を説明できる。	2	後11
			電気分解反応を説明できる。	2	後12
			電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	2	後14
			ファラデーの法則による計算ができる。	2	後13

評価割合

	試験（再試験も含む）	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合理科I
科目基礎情報					
科目番号	LK1105		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	共通教育科 (熊本)		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「改訂版 化学基礎」 数研出版, 「化学」 数研出版, 「改訂版 新編生物基礎」 東京書籍 / 「ニューサポート 新編生物基礎」 東京書籍				
担当教員	松上 優				
到達目標					
【化学分野】 化学的な事象・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高めるための実験からなる教育領域であり, 以下を到達目標とする。 ・安全に実験が行えるように, 薬品や火気の取り扱いなどを理解し, 代表的な器具の取り扱い, 基本操作 (気体発生, ろ過等) ができる。 ・中和滴定および電池の実験を適切に行うことができる。 ・測定データをもとに必要な計算や考察をしてレポートを作成できる。 【生物分野】 自然の事物・現象に関する観察, 実験などを通して, 「生物とそれを取り巻く気球環境を中心に, 自然の事物・現象について理解し, 人間と自然とのかわりについて考え, 自然に対する総合的な見方や考え方を養う」ことを基本目標とし, 以下を到達目標とする。 ・生物分野と人間生活とのかわりについて理解することができる。 ・自然, 環境, 科学技術に対する興味・関心を高める教育領域である, ライフサイエンスの立場から, 「ものづくり」で必要となる環境への配慮ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
安全	実験の基礎知識として安全防具の使用法, 薬品の取り扱い, 火気の取り扱い, 整理整頓を行うことができる。また, 事故が起きた際に適切な対処ができる。		実験の基礎知識として安全防具の使用法, 薬品の取り扱い, 火気の取り扱い, 整理整頓を知っている。また, 事故が起きた際に適切な対処法を知っている。		実験の基礎知識として安全防具の使用法, 薬品の取り扱い, 火気の取り扱い, 整理整頓を行うことができない。また, 事故が起きた際に適切な対処ができない。
レポート作成	化学実験に対する適切な測定と測定値の取り扱いができる。有効数字の概念・測定器具の精度が理解できる。レポート作成の手順を理解し, レポートを作成できる。		化学実験に対する適切な測定と測定値の取り扱いを知っている。有効数字の概念・測定器具の精度が理解できる。レポート作成の手順を理解し, レポートを作成する方法を知っている。		化学実験に対する適切な測定と測定値の取り扱いができない。有効数字の概念・測定器具の精度が理解できない。レポート作成の手順を理解し, レポートを作成できない。
基本操作	ガラス器具の取り扱いができる。基本的な実験器具に関して, 目的に応じて選択し, 正しく使うことができる。試薬の調整ができる。代表的な気体の発生の実験ができる。代表的な無機化学反応により沈殿を作り, ろ過ができる。		ガラス器具の取り扱いを知っている。基本的な実験器具に関して, 目的に応じて選択することができる。試薬の調整法を知っている。代表的な気体の発生の実験を知っている。代表的な無機化学反応を知っている。		ガラス器具の取り扱いができない。基本的な実験器具に関して, 目的に応じて選択し, 正しく使うことができない。試薬の調整ができない。代表的な気体の発生の実験ができない。代表的な無機化学反応により沈殿を作り, ろ過ができない。
生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について理解して, 説明できる。生物の共通性と進化の関係について理解して, 説明できる。生物に共通する性質を理解して, 説明できる。		地球上の生物の多様性について理解している。生物の共通性と進化の関係について理解している。生物に共通する性質を理解している。		地球上の生物の多様性について理解していない。生物の共通性と進化の関係について理解していない。生物に共通する性質を理解していない。
地球上の植生	森林の階層構造を理解し, 森林・草原・荒原の違いについて説明できる。植生を理解し, その仕組みについて説明できる。世界のバイオームとその分布について説明できる。日本のバイオームの水平分布, 垂直分布について説明できる。		森林の階層構造を理解し, 森林・草原・荒原の違いについて理解している。植生の遷移について説明でき, その仕組みについて理解している。世界のバイオームとその分布について理解している。日本のバイオームの水平分布, 垂直分布について理解している。		森林の階層構造を理解し, 森林・草原・荒原の違いについて理解していない。植生の遷移について説明でき, その仕組みについて理解していない。世界のバイオームとその分布について理解していない。日本のバイオームの水平分布, 垂直分布について理解していない。
生態系	生態系の構成要素とその関係について説明できる。生態ピラミッドについて説明できる。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。		生態系の構成要素とその関係を理解している。生態ピラミッドについて理解している。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れを理解している。		生態系の構成要素とその関係について説明できない。生態ピラミッドについて説明できない。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できない。
人間活動と地球環境の保全	熱帯林の減少と生物多様性の喪失について理解し, 説明できる。有害物質の生物濃縮について理解し, 説明できる。地球温暖化の問題点, 原因と対策について理解し, 説明できる。		熱帯林の減少と生物多様性の喪失について理解している。有害物質の生物濃縮について理解している。地球温暖化の問題点, 原因と対策について理解している。		熱帯林の減少と生物多様性の喪失について理解していない。有害物質の生物濃縮について理解していない。地球温暖化の問題点, 原因と対策について理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					

概要	【化学分野】 (1) 安全 器具・薬品・火気の取り扱いなどを理解し、安全に実験を行うことができる。 (2) レポート作成 測定データをもとに必要な計算や考察をしてレポートを作成できる。 (3) 基本操作 基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。 試薬の調整ができる。 【生物分野】 (1) 生物の共通性と多様性 地球上の生物が多様であり、かつ共通性があることを理解する。 (2) 地球上の植生、生態系 地球には様々なバイオームがあることを知り、その成因について理解する。 生態系の成り立ちについて理解する。 (3) 人間活動と地球環境の保全 人間活動と地球環境の保全について考えることができる。
授業の進め方・方法	本科目の化学分野は実験を行うための安全教育・実験レポート作成について講義を行う。生物分野は教科書に従い講義を中心に進める。
注意点	1単位 30時間 (後期：1コマ) 化学分野は主に実験に関する内容なので、座学の内容をしっかりと自学自習すること。 生物分野は座学のため授業内容を問題集を利用して自学自習すること。 試験の成績が60点に達しない場合は、再試験を行なうことがある。

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス / 安全	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。
		2週	基本操作 (実験)	ガラス器具の取り扱いができる。 基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。 試薬の調整ができる。 代表的な気体の発生の実験ができる。 代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。
		3週	レポート作成	測定と測定値の取り扱いができる。 有効数字の概念・測定器具の精度が理解できる。 レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。
		4週	中和滴定 (実験)	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		5週	ダニエル電池 (実験)	ダニエル電池についてその反応が説明できる。
		6週	気体の法則 (1)	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。
		7週	気体の法則 (2)	気体の状態方程式が説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	生物の多様性と共通性 (1)	地球上の生物の多様性について理解している。
		10週	生物の多様性と共通性 (2)	生物の共通性と進化の関係について理解している。 生物に共通する性質について理解している。
		11週	地球上の植生 (1)	森林の階層構造を理解し、森林・草原・荒原の違いについて理解している。 植生の遷移について説明でき、そのしくみについて理解している。
		12週	地球上の植生 (2)	世界のバイオームとその分布について理解している。 日本のバイオームの水平分布、垂直分布について理解している。
		13週	生態系 (1)	生態系の構成要素 (生産者、消費者、分解者、非生物的環境) とその関係について説明できる。
		14週	生態系 (2)	生態ピラミッドについて理解している。 生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。
		15週	人間活動と地球環境の保全	熱帯林の減少と生物多様性の喪失について理解している。 有害物質の生物濃縮について理解している。 地球温暖化の問題点、原因と対策について理解している。
		16週	定期試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	2	後1,後6
				気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	2	後7
				中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。	2	後4
				ダニエル電池についてその反応を説明できる。	2	後5
		化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	2	後1
				事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	2	後1
				測定と測定値の取り扱いができる。	2	後3

				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	2	後3
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	2	後3
				ガラス器具の取り扱いができる。	2	後2
				基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	2	後2
				試薬の調製ができる。	2	後2
				代表的な気体発生の実験ができる。	2	後2
				代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	2	後2
		ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	地球上の生物の多様性について説明できる。	2	後9
				生物の共通性と進化の関係について説明できる。	2	後10
				生物に共通する性質について説明できる。	2	後10
				森林の階層構造を理解し、森林・草原・荒原の違いについて理解している。	2	後11
				植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	2	後11
				世界のバイオームとその分布について説明できる。	2	後12
				日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	2	後12
				生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	2	後13
				生態ピラミッドについて説明できる。	2	後14
				生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	2	後14
				熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	2	後15
				有害物質の生物濃縮について説明できる。	2	後15
				地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	2	後15

評価割合			
	試験（生物分野）	実験・実験レポート（化学分野）	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育I
科目基礎情報						
科目番号	LK1106A		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	共通教育科（熊本）		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「現代高等保健体育」 和唐正勝 高橋健夫 大修館書店					
担当教員	高橋 恭平,岩田 大助,堀田 修					
到達目標						
心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
保健 ・現代社会と健康 ・生涯を通じる健康		健康に生きていくために必要な知識と、応急手当や心肺蘇生法の手順を理解し、説明・実践することができる。また、思春期の心と体の特徴を理解するとともに、青年期における健康問題を理解し、説明することができる。	健康に生きていくために必要な知識と、応急手当や心肺蘇生法の手順を理解している。また、思春期の心と体の特徴を理解するとともに、青年期における健康問題を理解している。	健康に生きていくために必要な知識と、応急手当や心肺蘇生法の手順、また、思春期の心と体の特徴を理解するとともに、青年期における健康問題を殆ど理解していない。		
体育実技 ・バレーボール、ソフトボール、卓球 ・ハンドボール、ラグビー ・バスケットボール、サッカー ・バドミントン、ドッジボール		基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、チーム内でも積極的に練習や試合に参加できる。	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、練習や試合に参加できる。	基本的な技術を身につけたり、ルールを覚えることが殆どできず、練習や試合に対して消極的な態度で参加してる。		
体育実技 ・水泳		基本的な技術を身につけ、常に速いタイムで泳ぐことができる。	基本的な技術を身につけ、常に速いタイムを出すという目標を設定し泳ぐことができる。	基本的な技術を身につけることが殆どできず、泳ぐことができない。		
体育実技 ・持久走		健康・安全に留意できる。また、持久力などの身体能力を高め、常に速いタイムで走ることができる。	健康・安全に留意できる。また、持久力などの身体能力を高め、常に速いタイムを出すという目標を設定し走ることができる。	健康・安全に留意できず、常に速いタイムを出すという目標を設定し走ることができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力について講義するとともにスポーツを楽しむ心を育てる。					
授業の進め方・方法	保健では健康に生きていくために必要な知識を学習する。体育実技では各種目で基本的な技術を身につけ、簡単なルールやゲームの進め方を学習するとともに社会性、協調性を身に付ける。教科書と現代高等保健体育ノートを使用し授業を進めます。板書は保健ノートに記入してください。実技では「ステップアップ高校スポーツ2015」を使用します。基本的なルールはすべて載っているのので、自分が選んだ種目のルールは読んで理解し競技に参加してください。また、トレーニング器具を使つての体力向上を目指します。					
注意点	体を動かすことが習慣化されるようになって下さい。球技はほとんどゲーム形式で進んでいきます。ゲームに積極的に参加し、その中で自分を表現できるようになって下さい。わからないことがあればいつでも質問してください。また、学校指定の体育服で活動してください。規定授業数は、60時間です。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・体力テスト	現在の体力・運動能力を知ることができる。		
		2週	体力テスト	同上		
		3週	バレーボール・ソフトボール・卓球（1）	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力して練習や試合ができる。		
		4週	バレーボール・ソフトボール・卓球（2）	同上		
		5週	バレーボール・ソフトボール・卓球（3）	同上		
		6週	バレーボール・ソフトボール・卓球（4）	同上		
		7週	実技試験（1）			
		8週	実技試験（2）			
	2ndQ	9週	水泳（1） （雨天時）室内競技・トレーニング	健康・安全に留意できる。また、持久力などの身体能力を高め、できるだけ速く泳げるようにする。仲間作りができる。社会性、協調性を身につけることができる。体力を向上することができる。		
		10週	水泳（2） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上		
		11週	水泳（3） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上		
		12週	水泳（4） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上		
		13週	水泳（5） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上		
		14週	水泳（6） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上		
		15週	実技試験（1）			
		16週	実技試験（2）			

後期	3rdQ	1週	バスケットボール・サッカー（１）	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力して練習や試合ができる。
		2週	バスケットボール・サッカー（２）	同上
		3週	バスケットボール・サッカー（３）	同上
		4週	バスケットボール・サッカー（４）	同上
		5週	バスケットボール・サッカー（５）	同上
		6週	バスケットボール・サッカー（６）	同上
		7週	実技試験（１）	
		8週	実技試験（２）	
	4thQ	9週	持久走タイム測定（１） （雨天時）室内競技・トレーニング	健康・安全に留意できる。また、持久力などの身体能力を高め、できるだけ速く走れるようにする。仲間作りができる。社会性、協調性を身につけることができる。体力を向上することができる。
		10週	持久走タイム測定（２） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上
		11週	持久走タイム測定（３） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上
		12週	持久走タイム測定（４） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上
		13週	持久走タイム測定（５） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上
		14週	持久走タイム測定（６） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上
		15週	持久走タイム測定（７） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上
		16週	持久走タイム測定（８） （雨天時）室内競技・トレーニング	同上

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	2	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	2	
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	2	
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	2	

評価割合

	実技試験					合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	100
	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育I (保健)	
科目基礎情報							
科目番号	LK1106B			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	共通教育科 (熊本)			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	現代高等保健体育						
担当教員	高橋 恭平						
到達目標							
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
健康	現代の健康に関する課題を認識した上で自身の心身と向き合うことはもちろん、他者の心身にも配慮することが出来る。			現代の健康に関する課題を認識した上で自身の心身と向き合うことが出来る。		現代の健康に関する課題を認識するのみで、自身の心身の健康に落とし込むことが出来ない。	
交通安全	現代の交通社会に関する課題を認識した上で、これからは自身が加害者にもなり得ることを想定し、それを説明することが出来る。			現代の交通社会に関する課題を認識した上で、これからは自身が加害者にもなり得ることを想定することが出来る。		現代の交通社会に関する課題を認識するのみに留まり、これからは自身が加害者にもなり得ることを想定することが出来ない。	
応急手当	身近で起こり得る様々な緊急事態を想定することが出来、それに備え、臨機応変に適切な対応が出来る。			身近で起こり得る様々な緊急事態を想定することが出来る。		身近で起こり得る様々な緊急事態を想定することが出来ない。	
思春期・結婚生活	現在、自身が思春期であることを認識した上で心身の変化と向き合い、また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響も理解・想像出来る。			現在、自身が思春期であることを認識、また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響も理解出来る。		現在、自身が思春期であることを認識出来ず、また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響も理解出来ない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「保健」は、健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う上で中心的な役割を担っている。したがって、実生活において、「保健」で身に付けた知識及び資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことが出来るよう努めて欲しい。そのために、健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動も取り入れ、思考力・判断力等を育成していく。						
授業の進め方・方法	教科書を網羅した上で、学習する単元と関連したトピックスを紹介したりして、学習内容を身近に感じてもらうよう努める。その他、人体模型及びAEDのトレーニングキットを用いた心肺蘇生の実習や人工妊娠中絶について考えるグループワーク課題を準備している。						
注意点	学生参加型の授業形態です。全体に対して問い掛けることが多いので、積極的な発言（態度）を心掛けて下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		授業内容や評価方法を把握し、次回以降の授業に備える。		
		2週	国民の健康水準と疾病構造の変化		我が国の死亡率、平均寿命、受療率など各種の指標を通して健康水準の動向を取り上げ、科学技術の発達や社会経済の発展に伴って健康水準が向上してきたこと、さらに、疾病構造が変化してきたことを理解できる。		
		3週	健康の考え方と成り立ち		健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化している。このことを、疾病や症状の有無を重視する健康の考え方や、生活の質や生きがいを重視する健康の考え方などを例として理解できる。		
		4週	健康に関する意志決定や行動選択		健康を保持増進するには、適切な意志決定や行動選択が必要であり、それらには個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることを理解できる。		
		5週	健康に関する環境づくり		ヘルスプロモーションの考え方に基づき、健康を保持増進するには、環境づくりが重要であることを理解できるようにする。その際、健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることを理解できる。		
		6週	生活習慣病と日常の生活行動		生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であることを理解できる。		
		7週	喫煙、飲酒と健康		喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり健康に影響があることを理解できる。また、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解できる。		
		8週	前期中間試験（筆記試験）				

後期	2ndQ	9週	薬物乱用と健康	コカイン，MDMAなどの麻薬，覚せい剤，大麻など，薬物の乱用は，心身の健康，社会の安全などに対して様々な影響を及ぼすので，決して行ってはならないことを理解できる。 また，薬物乱用を防止するには，正しい知識の普及，健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ，及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることを理解できる。
		10週	感染症とその予防	感染症は，時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け，発生や流行に違いが見られることを理解できる。その際，交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること，また，新たな病原体の出現，感染症に対する社会の意識の変化等によって，エイズ，結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できる。
		11週	欲求と適応機制	精神機能は，主として大脳によって統一的・調和的に営まれていることを理解できる。また，人間には様々な欲求があり，欲求が満たされない時には，不安，緊張，悩みなどの精神の変化が現れるとともに，様々な適応機制が働き，精神の安定を図ろうとすることを理解できる。
		12週	心身の相関	人間の精神と身体は密接な関連をもっていることを，身体的変化が精神に及ぼす影響と精神的変化が身体に及ぼす影響との両面から理解できる。また，この心身の相関には，主として自律神経系及び内分泌系の多くの器官がかかわっていることを理解できる。
		13週	ストレスへの対処	人間が生きていく上で，ストレスを感じることは自然なことであり，また，適度なストレスは精神発達に必要なものであるが，過度のストレスは心身に好ましくない影響をもたらすことがあることを理解できる。
		14週	自己実現	人間の欲求の高次なものの一つとして，自分自身を高め，もてる力を最大限に発揮したいという自己実現の欲求があり，また，その充足が精神の健康と深くかかわっていることを理解できる。
		15週	交通事故の現状	我が国における道路交通事故の状況を知り，具体的な事例を適宜取り上げ，事故には，車両の特性，当事者の行動や規範を守る意識，周囲の環境などが関連していることを理解できる。
		16週	前期期末試験（筆記試験）	
	3rdQ	1週	交通社会に必要な資質と責任	交通事故を防止するには，自他の生命を尊重するとともに，自分自身の心身の状態や車両の特性などを把握すること及び個人の適切な行動が必要であることを理解できる。また，交通事故には責任や補償問題が生じることを理解できる。
		2週	安全な社会づくり	事故のない安全な社会づくりには，環境の整備が重要であり，特に交通事故を防止するには，法的な整備，施設設備の充実，車両の安全性の向上などの対策が必要であることを理解できる。
		3週	応急手当の意義	適切な応急手当は，傷害や疾病の悪化を防いだり，傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できる。また，自他の生命や身体を守り，不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには，一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに，自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解できる。
		4週	日常的な応急手当	日常生活で起こる傷害や，熱中症などの疾病の際には，それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の手順や方法があることを実習を通して理解できる。
		5週	心肺蘇生法	心肺停止状態においては，急速に回復の可能性が失われつつあり，速やかな気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であることを理解できる。
		6週	心肺蘇生法（実技講習）	気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫などの原理や方法について，実習を通して理解できる。
		7週	心肺蘇生法（実技試験）	
		8週	後期中間試験（筆記試験）	
	4thQ	9週	思春期と健康	思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い，心理面，行動面が変化することについて理解できる。また，これらの変化に対応して，自分の行動への責任感や異性を尊重する態度が必要であること，及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できる。
		10週	結婚生活と健康	健康な結婚生活について，心身の発達や健康状態など保健の立場から理解できる。その際，受精，妊娠，出産とそれに伴う健康課題について理解できるとともに，家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できる。また，結婚生活を健康に過ごすには，自他の健康への責任感，良好な人間関係や家族や周りの人からの支援，及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことを理解できる。
		11週	人工妊娠中絶（課題提供）	新型出生前検査を理解できる。

		12週	人工妊娠中絶（レポート作成）	新型出生前検査のニーズが高まっている背景を理解できる。
		13週	人工妊娠中絶（グループワーク）	作成したレポートを元に自身の意見を述べたり他者の意見を聞いたりしながら、理解を深めることができる。
		14週	人工妊娠中絶（発表会1）	グループでまとめた内容を大勢の前で発表することができると共に、他グループの発表を聴講し、自身のグループの意見との比較検討をすることができる。
		15週	人工妊娠中絶（発表会2）	同上。
		16週	後期期末試験（筆記試験）	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	2	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	2	
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	2	
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で表現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	2	

評価割合

	筆記試験	授業態度	心肺蘇生	発表	合計
総合評価割合	75	5	10	10	100
基礎的能力	75	5	10	10	100

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語I
科目基礎情報						
科目番号	LK1107A		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	共通教育科 (熊本)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	市川泰男ほか『NEW EDITION UNICORN English Communication 1』文英堂、石黒昭博『総合英語Forest[7th Edition]』桐原書店、 齊藤智『総合英語Forest Intensive English Grammar in 27 Lessons 7th Edition』桐原書店、金谷憲『Listening Pilot Level 2 新訂版』東京書籍、萩野治雄『DataBase 4500完成英単語・熟語[4th Edition]』桐原書店					
担当教員	松尾 かな子,光永 武志					
到達目標						
1. 基本的な英文法を理解できる。 2. 基本的な英文和訳が出来る。 3. 文法事項について調べ、問題を解くことができる。 4. 基本的な英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1：英語のつづりと音との関係理解	学習範囲について、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発音できる。		学習範囲について、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発音ができる。		学習範囲について、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣することができない。	
評価項目2：語彙および文法事項	中学校での既習の語彙や文法事項の確実な定着に加え、学習範囲の語彙や文法事項を十分理解することができる。		中学校での既習の語彙や文法事項の確実な定着に加え、学習範囲の語彙や文法事項をほぼ理解することができる。		中学校での既習の語彙や文法事項の定着が十分でなく、学習範囲の語彙や文法事項を理解することができない。	
評価項目3：リーディングとライティング	学習範囲について、内容を読んで十分に理解し、また内容について概要など簡単なライティングを行うことができる。		学習範囲について、内容を読んでほぼ理解し、また内容について概要など簡単なライティングをほぼ行うことができる。		学習範囲について、内容を読んで理解することが難しく、また内容について概要など簡単なライティングをすることができない。	
評価項目4：リスニングとスピーキング	学習範囲について、聴いて内容を十分に理解し、また内容について他者に口頭で明確に説明することができる。		学習範囲について、聴いて内容をほぼ理解し、また内容について他者におよそ口頭で説明することができる。		学習範囲について、聴いて内容を理解することができない。また内容について他者に理解してもらえないように口頭で説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	週2時間のうち、1.5時間は検定教科書と文法テキストを用い、英語の基本四技能（読む・書く・聞く・話す）の習得を目指す。0.5時間はLL教室にて、リスニングの授業を行う。通常の定期試験に加え、年3回の英単語コンテストを実施するほか、適宜小テストを行う。予習は必須であり、教員によるノートチェックも行う。					
授業の進め方・方法	教科書については、単語と熟語の意味調べ、本文の和訳などの予習をする。授業中の板書等を書き写し、復習しやすいノート作成を心がける。各課ごとにワークブックを利用して復習する。普段から身のまわりの英語に関心を持ち、図書館の英語テキスト（多読用Graded Readers）や英語の映画や音楽などを参考にする。					
注意点	規定授業時数（単位時間）：120時間。校内英単語コンテストを年3回実施する。本科目は英検、TOEICテストなどの英語試験と関連性が深い。授業中の活動を重点的に評価するため、真剣に取り組むこと。4技能（読む・書く・聴く・話す）を更に伸ばすべく、授業外においても音読練習、課題等、継続して学習に取り組むとともに、日常的に英語に触れておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス UNICORN 1: L1 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7		英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。	
		2週	UNICORN 1: L1 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7		英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。	
		3週	UNICORN 1: L1 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7		英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。	
		4週	UNICORN 1: L2 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7		英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。	

		5週	UNICORN 1: L2 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		6週	UNICORN 1: L2 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		7週	UNICORN 1: L3 Listening Pilot 2: L1-5 Forest Intensive English Grammar: L1-7	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、基本文型や助動詞、to不定詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		8週	UNICORN 1: L3 Listening Pilot 2: L6-10 Forest Intensive English Grammar: L8-14	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、過去完了や原形不定詞、関係詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
	2ndQ	9週	中間試験	
		10週	UNICORN 1: L3 Listening Pilot 2: L6-10 Forest Intensive English Grammar: L8-14	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、過去完了や原形不定詞、関係詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		11週	UNICORN 1: L4 Listening Pilot 2: L6-10 Forest Intensive English Grammar: L8-14	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、過去完了や原形不定詞、関係詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		12週	UNICORN 1: L4 Listening Pilot 2: L6-10 Forest Intensive English Grammar: L8-14	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、過去完了や原形不定詞、関係詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		13週	UNICORN 1: L4 Listening Pilot 2: L6-10 Forest Intensive English Grammar: L8-14	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、過去完了や原形不定詞、関係詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		14週	UNICORN 1: L5 Listening Pilot 2: L6-10 Forest Intensive English Grammar: L8-14	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、過去完了や原形不定詞、関係詞等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		15週	定期試験	
		16週	答案返却	
後期	3rdQ	1週	UNICORN 1: L5 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		2週	UNICORN 1: L5 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにする。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。

		3週	UNICORN 1: L6 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		4週	UNICORN 1: L6 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		5週	UNICORN 1: L6 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		6週	UNICORN 1: L7 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		7週	UNICORN 1: L7 Listening Pilot 2: L11-15 Forest Intensive English Grammar: L15-21	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、関係副詞や分詞構文、不定詞の受動態等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	UNICORN 1: L7 Listening Pilot 2: L16-20 Forest Intensive English Grammar: L22-27	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		10週	UNICORN 1: L8 Listening Pilot 2: L16-20 Forest Intensive English Grammar: L22-27	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		11週	UNICORN 1: L8 Listening Pilot 2: L16-20 Forest Intensive English Grammar: L22-27	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		12週	UNICORN 1: L9 Listening Pilot 2: L16-20 Forest Intensive English Grammar: L22-27	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		13週	UNICORN 1: L9 Listening Pilot 2: L16-20 Forest Intensive English Grammar: L22-27	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		14週	UNICORN 1: L10 Listening Pilot 2: L16-20 Forest Intensive English Grammar: L22-27	英語のつづりと音との関係を理解し、英語の標準的な発音を聴いて音を模倣しながら、また発音記号を見て発生できるようにになる。中学校での既習の語彙や文法事項、構文を定着させる。学習範囲について、現在完了進行形や完了形の受動態、仮定法過去等を理解して、それを用いた簡単なリーディング、リスニング、簡単なライティング・スピーキングができるようになる。
		15週	定期試験	
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	前1,前2,前3,前4
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	前1,前2,前3,前4
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	前1,前2,前3,前4
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	前1,前2,前3,前4
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	1	前5,前6,前7,前8,前9
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	1	前5,前6,前7,前8,前9
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	1	前5,前6,前7,前8,前9
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	前10,前11,前12,前13,前14
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	前10,前11,前12,前13,前14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	前10,前11,前12,前13,前14
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	1	前10,前11,前12,前13,前14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	後1,後2,後3,後4
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	後1,後2,後3,後4
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	後1,後2,後3,後4
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	後5,後6,後7,後8,後9
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	後5,後6,後7,後8,後9
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	後5,後6,後7,後8,後9
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	1	後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	1	後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	1	後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	1	後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	平常点（小テスト・レポート等		合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語Ⅰ 演習	
科目基礎情報							
科目番号		LK1108		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		共通教育科 (熊本)		対象学年		1	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		新編 国語総合 数研出版 (代表著作者 坪内稔典)					
担当教員		草野 美智子					
到達目標							
日本語に関する技能や言語感覚を育成することで、円滑な社会生活を送ることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
書く力		自分の意見 (主張) に対して、理由 (根拠) が書ける。説得力を持たせるために、データ・先行研究・引用を駆使できる。自分の考えと引用を区別する。冗長な文章にならないために、一文の長さに気をつける。序論・本論・結論など文章の構成や何を伝えるのか方向性を考えて書く。文体を統一する。誤字・脱字がない。参考文献を書く。インターネットは、閲覧日とURLを明記する。		自分の意見 (主張) に対して、理由 (根拠) が書ける。説得力を持たせるために、データ・先行研究・引用するときがある。自分の考えと引用を区別する。冗長な文章にならないために、一文の長さに気をつける。序論・本論・結論など文章の構成や何を伝えるのか方向性を考えて書く。文体を統一する。誤字・脱字がない。参考文献を書く。インターネットは、閲覧日とURLを明記する。		自分の意見 (主張) に対して、理由 (根拠) が明確に書けない。データ・先行研究、引用の使い方が適切でない。自分の考えと引用を区別しない。一文が長く冗長な文章になっている。序論・本論・結論など論文の構成や何を伝えるのか方向性が曖昧である。文体が統一されていない。誤字・脱字がある。参考文献を示さない。インターネットは、閲覧日とURLを明記しない。	
話す力		聴衆を見渡ししながら、視線を合わせることができる。さまざまな説明の方法や手段を駆使し、わかりやすく伝え、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる。短く簡潔な文でわかりやすい語彙と表現を用いて話す。ゆっくりした口調で会場の広さに応じた声の大きさで、相手の理解度に応じて話す。自分の考えや意見を積極的に伝えようとする熱意にあふれている。一方的にならずに、相手からの質問や反論に適切に回答して、対話や議論を展開できる。自分の体験やこれまでの知識を駆使して具体的に話して、説得力を増して話す。		時々聴衆を見渡ししながら、視線を合わせることができる。わかりやすく伝え、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる。比較的短く簡潔な文でわかりやすい語彙と表現を用いて話す。比較的ゆっくりした口調で会場の広さに合わせた声の大きさで、時々相手の様子を見ながら話す。発表の機会を勉強ととらえ自分の意見や考えを述べる。相手からの質問に適切に回答する。これまでの知識を駆使して具体的に話す。		聴衆と視線を合わせることなく、下を見て発表原稿ばかり読んで朗読になっている。何を話すかまとまっておらず、内容が伝わらない。早口であったり会場の後ろまで聞こえない小声で話す。相手の理解とは関係なく一方的に話す。発表の機会があっても逃げようとする。質問が出ても適当に答えるか、答えられない。話が具体的でない。	
読む力		文章全体に目を通し、どんなことが書かれているか、分からない用語を調べながら読む。書かれている内容をそのまま鵜呑みにせず、批判的に疑問を持ちながら読む。キーワードやキーセンテンスを見つけて読む。段落間のつながりを考えながら読む。著者の最も伝えたいこと (主張とそれを裏付ける根拠) を意識して読む。よく通る声で感情をこめながら朗読できる。		文章に目を通し、どんなことが書かれているかを意識しながら読む。書かれている内容をまずは正確に読む。繰り返し出てくる言葉をキーワードやキーセンテンスととらえて読む。前後の段落間のつながりを考えながら読む。著者の最も伝えたいこと (主張とそれを裏付ける根拠) を抜き出す形で読む。範読に従って正しく読める。		教科書を忘れる。自分から読もうとせずに、板書に依存する。分からない用語をチェックしない。書かれている内容をそのまま鵜呑みにし、疑問を持たない。キーワードやキーセンテンスを見出すことなく漫然と読む。段落間のつながりを考えない。著者の最も伝えたいこと (主張とそれを裏付ける根拠) を自分から見いだせない。声がかくぐもって発音が明瞭でない。漢字の読み間違いがある。	
聞く力		顔を挙げて相手の話を最後まで傾聴して、十分に理解した上で、さまざまな視点から考えることができる。相槌やうなずきを入れて相手が話しやすい雰囲気を作る。メモを取りながら、内容への質問や意見、疑問点を考えながら聴く。以前のメモを振り返って、今日の話と関連付けられるように聴く。多様な意見や考えを柔軟に受け入れて視野を広げる態度で聴く。		相手の話を最後まで聴き、意図や気持ちなどまで理解できる。好意的な表情を浮かべて相手が話しやすい雰囲気を作る。メモを取る。様々な意見があることを受け入れる。		相手の話を最後まで聴かずに、勝手な判断をしたり、鵜呑みにして、理解できていない。下を向いて話を聴こうとする積極的な姿勢が見られない。メモを取らない。自分の意見に固執して他人の考えを聴こうとしない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		この授業では、皆さんが社会人となり、職場や地域、家庭等で、円滑なコミュニケーションを行う際に必要な技能や感覚、態度について取り扱う。国語Ⅰと国語演習の時間は分けずに、授業を行う。評価は、国語Ⅰとして成績をつける。					
授業の進め方・方法		教科書による授業が中心となる。日本語による「読む」「書く」「聴く」「話す」の全領域について、精読を通して内容を的確に読みとり、語彙力を高め、理解する力を養う。教員と学生、学生同士のインタラクティブな活動により、考察力、表現力、コミュニケーション能力も磨く。国語Ⅰの授業内容に国語演習Ⅰを含むものとする。					
注意点		3単位科目 90時間の授業。国語はすべての教科の基本となるため、積極的に取り組むこと。課題は期日までに確実に提出すること。分からない点は、分かるまで授業中や後で質問をする。授業内容に関連する日常現象や出来事について触れたときには、自主的に内容を調べる。習った内容について、日常生活の中で当てはまる場面がないか注意して観察する。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	スピーチ・集団討論①		・テーマに沿って人前でわかりやすく発表する。テーマに沿って集団で討論する。		
		2週	スピーチ・集団討論②		・テーマに沿って人前でわかりやすく発表する。テーマに沿って集団で討論する。		

		3週	小説『夢十夜』①	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 ・冒頭の一文の位置づけと、作品の構造を理解する。 ・寓意について読み取る。 ・作者や日本の近代文学についての理解を深める。
		4週	小説『夢十夜』②	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 ・冒頭の一文の位置づけと、作品の構造を理解する。 ・寓意について読み取る。 ・作者や日本の近代文学についての理解を深める。
		5週	創作「夢十夜」と相互批評	・短編小説を創作する。 ・相互に読み合い批評する。
		6週	唐詩①	・近体詩の形式、きまり等を理解し、作者の意図を理解する。 ・決まりに則って、詩を創作する。
		7週	唐詩②	・近体詩の形式、きまり等を理解し、作者の意図を理解する。 ・決まりに則って、詩を創作する。
		8週	中間試験	授業の総括をし、試験を行う。
	4thQ	9週	答案返却 評論「滅びるものは滅びるままに」①	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。 ・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取り、ボランティアについての理解を深める。
		10週	評論「滅びるものは滅びるままに」②	・筆者の論理性をもったアプローチを理解し、内容を読み解くとともに、人生観や価値観を育む。
		11週	評論「滅びるものは滅びるままに」③	・筆者の論理性をもったアプローチを理解し、内容を読み解くとともに、人生観や価値観を育む。
		12週	十八史略「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」①	・句法に注意しながら口語訳し、出来事の経緯や登場人物の役割を的確に読み取る。 ・さまざまな人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。 ・劇にして上演する。
		13週	十八史略「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」②	・句法に注意しながら口語訳し、出来事の経緯や登場人物の役割を的確に読み取る。 ・さまざまな人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。 ・劇にして上演する。
		14週	十八史略「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」③	・句法に注意しながら口語訳し、出来事の経緯や登場人物の役割を的確に読み取る。 ・さまざまな人物像を通して、人間の生き方について考えを深める。 ・劇にして上演する。
		15週	定期試験	授業の総括をし、試験を行う。
		16週	答案返却	試験結果を返却し、誤答への理解を深め、異議に応じる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	2	前1,前2,前7
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	2	前2
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	2	前2,前7
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	2	前2
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	2	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	2	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	2	
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	2	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	2	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	

			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	
評価割合					
		試験	発表	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	
専門的能力		0	0	0	

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術（音楽）	
科目基礎情報							
科目番号	LK1109A			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	高校音楽 I 改定版 Music View 教育出版						
担当教員	河田 勇一						
到達目標							
1. 音符、休符、リズム、拍子を理解できる。 2. 音部記号を理解し、階名読みができる。 3. 3度までの音程を理解し、コードネームの仕組みを理解できる。 4. 表情豊かに歌唱表現ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	音符、休符の長さを理解し、躍動感のあるリズムを創作できる。			音符、休符の長さを理解し、拍子に合ったリズムを創作できる。		音符、休符の長さを理解できず、拍子に合わないリズムを創作してしまう。	
評価項目2	楽譜のメロディーをリズム通り階名読みができる。			楽譜のメロディーの階名読みができる。		楽譜のメロディーの階名を間違えて読む。	
評価項目3	音程を理解し、メロディーにコードネームが付されただけの楽譜で演奏できる。			音程を理解し、コードネームを見て使用される基本的な音が分かる。		音程が理解できず、コードネームを見ても使用される音が分からない。	
評価項目4	クラス全員の前で、大きな声で表情豊かに歌うことができる。			クラス全員の前で、皆に聴こえるように歌うことができる。		クラス全員の前で、皆に聴こえるか聴こえない程のかほそい声で歌う。若しくは、音やリズムをはずしっ放しで歌う。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1回の授業の半分を歌の時間に充て、表現の楽しさ、喜びを味わわせる。残り半分を理論に充て、音楽の基本的内容について講義する。						
授業の進め方・方法	授業は、歌と基本的な音楽理論を中心に進める。教科書及び、教科書以外の学生が希望する楽曲も取り入れる。理論はポピュラー音楽に不可欠なコードネームについて講義する。						
注意点	歌唱教材は同時に鑑賞教材にもなる。鑑賞する際は私語を慎み静かに聴くこと。そして、曲のフィーリングやイメージ等をつかみ歌唱に生かすこと。理論は、小、中学校で学ぶ内容が土台にあるが、音程等は新たに学ぶことと思われるので、集中して聞くこと。学生が希望する楽曲も取り入れるので、積極的に取り組んでもらいたい。配布されたプリントは各自が管理し、授業に必ず持参すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	歌唱（半年を通じて） 音符について		元気に歌うことができる。音符の長さを理解できる。		
		2週	音符、休符について		付点音符、休符の長さを理解できる。		
		3週	音符、休符について		音符、休符を使ったリズムを手でたたいて表現できる。		
		4週	拍子、リズムについて		拍子を理解し、リズム創作に挑戦。		
		5週	リズム創作		創作したリズムを皆の前で発表する。（数人指名）		
		6週	大譜表、音階		ト音記号、ヘ音記号を理解し、階名をドレミで読むことができる。		
		7週	音程について（1）		音程の1度、2度を理解できる。		
		8週	音程について（2）		音程の3度までを理解できる。		
	4thQ	9週	中間試験				
		10週	コードネームについて（1）		長三和音、短三和音を理解し、コードネームで表すことができる。		
		11週	コードネームについて（2）		属七、短七、長七の和音を理解し、コードネームで表すことができる。		
		12週	コードネームについて（3）		メロディーを移調し、コードネームもそれに伴って書き換えることができる。		
		13週	歌唱実技テスト				
		14週	歌唱実技テスト				
		15週	定期試験				
		16週	答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	筆記試験（中間）		筆記試験（期末）		歌唱実技	合計	
総合評価割合	50		15		35	100	
基礎的能力	50		15		35	100	
専門的能力	0		0		0	0	
分野横断的能力	0		0		0	0	

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術（美術）	
科目基礎情報							
科目番号	LK1109B			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	永井一正他著【高校美術1】日本文教出版						
担当教員	筒井 周二						
到達目標							
1. 美術について・履修の意義、目的を理解する。 2. 観察による主題の新鮮な把握が出来る。色彩や形態を意図的に捉えて表すことが出来る。創造的に主題を追求し、工夫して表現が出来る。 3. 目的や条件、意図に応じた表し方、色彩、文字、材料や用具、制作方法の工夫が出来る。 4. 形態の捉え方を習得出来る。明暗、陰影、比例、均衡、動勢などの表現を工夫出来る。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	美術を学ぶ目的を積極的に考え、自分なりの考えをもっている。			美術を学ぶ目的と考えを一定程度持ち合わせている。		美術を学ぶ目的が不明瞭である。	
評価項目2	モチーフとなる静物や風景といったものに関心をもち、配置や視点を工夫して構想を練り、主体的に主題を設定して造形的な効果を生かし、創造的に表現している。			モチーフとなる静物や風景といったものに関心をもち、配置を工夫、主題を追求し表現している。		対象となるモチーフを自由に組み立てて画面構成を考えることが出来ない。	
評価項目3	基礎的な色彩理論を理解し、配色がもたらす効果を知り積極的にデザイン作品に生かすことが出来る。			基礎的な色彩理論を一定程度理解し、デザイン作品に効果的な配色が出来る。		基礎的な色彩理論を理解できず、デザイン作品への効果的な配色が概して出来ない。	
評価項目4	モチーフの石膏形態を立体表現の諸要素である、形、明暗、マッサが作品に正確に描写されている。			モチーフの石膏形態を立体表現の諸要素である形、明暗、マッサが作品に一応描写されている。		立体表現に要する形、明暗、マッサが作品の描写表現に乏しい。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	美術の創造活動を通して美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすと共に、美術を愛好する心情を養う。授業は基礎的な内容に重点を置いて実施する。						
授業の進め方・方法	新鮮な感動、想像による主題の把握が出来るようにする。課題の中で多様な見方、表現方法の工夫が出来るようにする。意図に応じた材料や用具の活用が出来るようにする。						
注意点	音楽と共に芸術を学ぶ。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	身体の形について		クロッキーやデッサンを通して人体を描くことが出来る。		
		2週	幾何形体のデッサン①		明暗の階調を描くことが出来る。		
		3週	幾何形体のデッサン②		①をふまえて立体的な表現が出来る。		
		4週	描画材と表現		さまざまな絵の具について理解を深め、意図に応じた表現が出来る。		
		5週	人物画①		肖像画など様々に表現された人物画に関心がもてる。		
		6週	人物画②		①をふまえ友人をモデルに肖像画を描き、人物を表現する楽しさを感じとらせる。		
		7週	想像画について		さまざまな夢や空想といった心の中の作品を鑑賞し、作者の意図や心情を考えることが出来る。		
	8週	版画の技法について		版画の種類や技法を十分に理解できる。			
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	彫刻による表現について		ミケランジェロと運慶の作品を比較しながら、それぞれの作品の特徴について考えることが出来る。		
		11週	デザインについて		「リ・デザイン」の作品を見て、作者の意図と表現の工夫などを感じることが出来る。		
		12週	色彩の基礎①		色の仕組みや性質を知ることが出来る。		
		13週	色彩の基礎②		①をふまえ配色の工夫がもたらす効果を積極的に作品に生かせることが出来る。		
		14週	配色の魅力		意図した内容を伝えるために最も効果的な配色を考え工夫して表現が出来る。		
		15週	定期試験				
16週		答案返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		小テスト		合計		
総合評価割合	80		20		100		
基礎的能力	20		10		30		
専門的能力	60		10		70		
分野横断的能力	0		0		0		

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	基礎科目応用第一	
科目基礎情報							
科目番号	LK1151			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	0.5		
教科書/教材							
担当教員	教務係（または非常勤講師）						
到達目標							
・単位の認定申請は1～5年の各学年で可能である。 ・資格取得が複数学年に渡った場合でも、複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる。 ・1単位の修得に要する換算単位時間は30単位時間以上とする。余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 ・同種に資格については、級が異なる場合は1度のみ申請できる。							
ルーブリック							
対象となる資格試験				一覧表（ http://www.kumamoto-nct.ac.jp/file/syllabus/2016/LK151-table.html ）を参照のこと。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、漢字検定や実用英語検定などの資格取得があった場合に、単位の修得を認定する。科目は第一、第二及び第三に分けられ、各単位数は1単位であり、最高3単位まで認められる。但し、この修得単位は学生自身からの申請に基づき認定される。またこの修得単位は卒業認定に必要な単位には含まない。						
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は1～5年の各学年で可能である。 ・資格取得が複数学年に渡った場合でも、複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる。 ・1単位の修得に要する換算単位時間は30単位時間以上とする。余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 ・同種に資格については、級が異なる場合は1度のみ申請できる。						
注意点	修得認定は上記の資格試験について、本校在学中に取得した場合には、各自の単位認定申請により、資格取得年度の単位として認定を行うものとする。認定された取得資格に相当する換算単位時間の合計が30単位時間以上の場合、単位申請を行うことによって、科目の修得が認定される。単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 授業科目との関連性があり、低学年から積極的に取り組むことが大切である。上記以外で、類似すると思われる資格取得の単位修得については、共通教育科の申し出により、教務委員会で検討し、相当する換算単位時間を定め、科目の修得を認めることがある。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		対象となる資格の取得		合計	
総合評価割合		100		100	
基礎的能力		100		100	
専門的能力		0		0	
分野横断的能力		0		0	

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	特別学習第一
科目基礎情報						
科目番号	LK1154			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	0.5	
教科書/教材						
担当教員	教務係（または非常勤講師）					
到達目標						
・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。 ・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 ・科目は第一、第二に分けられ、各単位数は1単位である。 ・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。						
ルーブリック						
		時数	達成目標			
ロボットコンテスト		30	チームメンバー			
プログラミングコンテスト		30	チームメンバー			
特別講義等		30	30単位時間以上の活動			
特別講義等		実単位時間	30単位時間未満の活動			
環境ボランティア		30	30単位時間以上の活動			
環境ボランティア		実単位時間	30単位時間未満の活動			
バイク講習会学生指導員ボランティア		30	30単位時間以上の活動			
バイク講習会学生指導員ボランティア		実単位時間	30単位時間未満の活動			
ボランティア		30	30単位時間以上の活動			
ボランティア		実単位時間	30単位時間未満の活動			
廃炉創造ロボコン		30	30単位時間以上の活動			
廃炉創造ロボコン		実単位時間	30単位時間未満の活動			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。 ・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 ・学習活動の蓄積で評価されるので、低学年の内から積極的に取り組むことが大切である。 ・科目は第一、第二に分けられ、各単位数は1単位である。 ・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。					
授業の進め方・方法	★ボランティアとは、地域社会活動に関するものを除くものである。 ・単位の認定申請は1～5年の各学年で可能である。 ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる。 ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる。 ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 規定授業時数＝換算単位時間					
注意点	・修得認定は上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・履修単位に応じて、特別学習第一、および第二のいずれか一方または両方を選択でき、単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ★ただし、同種の活動はいずれか一方の申請にしか使用できず、特別学習第一と第二の両方に申請することはできない。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し、該当すると判断されたなら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	活動時間	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地域社会活動一
科目基礎情報						
科目番号	LK1156			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	0.5	
教科書/教材						
担当教員	教務係（または非常勤講師）					
到達目標						
・単位の認定申請は1～5年の各学年で可能である。 ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる。 ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる。 ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 規定授業時数＝換算単位時間						
ルーブリック						
地域社会における行事に関する活動および、科学技術活動				30単位時間以上の活動		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目は、個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学修活動を評価するものである。 学生が自発的に行う学修活動で、教育上有益と認められるものについて、学外での各種科学技術活動や地域での行事に関する活動などについて成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 科目は一、二に分けられ、各単位は1単位である。 ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含まない。					
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は1～5年の各学年で可能である。 ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる。 ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる。 ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。					
注意点	・修得認定は、上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・履修単位に応じて、地域社会活動一及び二のいずれか一方または両方を選択でき、単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ・ロボコン、環境ボランティアなどの校内活動は特別学習で申請することとする。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し該当すると判断されたら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。					
授業計画						
		週	授業内容			週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験		合計	
総合評価割合		0		0	
基礎的能力		0		0	
専門的能力		0		0	
分野横断的能力		0		0	

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	HR	
科目基礎情報							
科目番号	LK1191		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	共通教育科 (熊本)		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材							
担当教員	高橋 恭平						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	HR	
科目基礎情報							
科目番号	LK1192			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	菊池 耕士						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	HR	
科目基礎情報							
科目番号	LK1193		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	共通教育科 (熊本)		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材							
担当教員	山崎 充裕						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	HR	
科目基礎情報							
科目番号	152868		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	共通教育科 (熊本)		対象学年	2			
開設期	通年		週時間数	1			
教科書/教材							
担当教員	菊池 耕士						
到達目標							
ループリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
クラス・学校行事活動		クラス行事や学校行事に積極的に参加し、協調性をもってクラス運営に関われる。		クラス行事や学校行事に参加できる。		クラス行事や学校行事に参加できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 4-1							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	HR	
科目基礎情報							
科目番号	152869			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	共通教育科（熊本）			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	松尾 かな子						
到達目標							
特別活動のうちの1つとして学年やクラス単位でのさまざまな活動を通して、社会的知識、コミュニケーション能力、問題解決能力の基礎を習得する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
クラス活動		クラスの一員として活動に積極的に参加し、リーダーシップを発揮できる。		クラスの一員として活動に参加・協力できる。		クラスの活動に参加できない。	
学年活動		学年の活動に積極的に参加できる。		学年の活動に、指示があれば参加・協力できる。		学年の活動に参加できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 4-1							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	100	0	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0